

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	森のルーナ保育園	種別：	認可保育園		
代表者氏名：	園長 野武 慶子	定員（利用人数）：	60（70）名		
所在地：	240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1				
TEL：	045-339-1152	ホームページ：	https://luna-hoikuen.com/mori/		
【施設・事業所の概要】					
開設年月日	2012年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 あおい会				
職員数	常勤職員：	12名	非常勤職員：	13名	
専門職員	保育士	18名	栄養士	1名	
	看護師	1名	調理員	5名	
	用務員	0名	保育補助	6名	
施設・設備の概要	居室数：	保育室8 調理室 事務室 休憩室 子育て支援スペース2		設備等：	冷暖房（床暖房）

③理念・基本方針

理念

・これからの社会を担う子どもたち、一人ひとりの最善の利益を保障することを基本に、心身共に健やかに育つ環境づくりに努め、地域に開かれた子育て支援を行う。

基本方針

・ひとりひとりが健康で明るく毎日を過ごせるよう、心を大切にする保育を進めていくとともに子ども同士の関わりを大切に、いろいろな経験を通してお互いが成長し合う場となるように努める。
 ・集団の生活時間が長時間に及んでも、子どもにとって家庭生活が何より大切であり基盤となるので、家庭と十分に連携をとりながら、子どもにとってのより良い保育を進めていくように心がける。
 ・子どもの健やかな育ちを求め、職員一人ひとりが資質の向上を目指し、より質の高い保育を行うとともに、人権を尊重し、プライバシーを保護することに努める。
 ・保護者が安心して子育てと仕事が両立できるよう連携を強める。また、地域へ積極的に子育て情報（育児講座・相談、交流保育、一時保育等）を発信し、地域の子育て支援の拠点となるよう努める。

④施設・事業所の特徴的な取組

園は、横浜市営バス「岡沢町」バス停より徒歩5分ほどで、定員は60名となっています。
当園は、横浜国立大学の敷地内にあり、緑豊かな自然に囲まれた静かな環境となっています。
子どもたちは、保育室内でも木々の緑を感じながら活動を行うことができるほか、散歩で大学内の広場に出かけ、四季を感じながら日常的に自然と触れ合い、伸び伸びと遊んでいます。
法人では、当園を含め、4園の保育所を運営しており、当園は、系列園の3園目として、2012年4月1日に開設しています。系列園の交流事業として、5歳児のドッジボール大会や4、5歳児の観劇などを実施しています。また、4園の職員全員が参加する法人全体会議や法人内での研修を実施しています。
0～2歳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制を導入し、3～5歳児クラスでは、子どもの主体性を引き出すための保育環境づくりを行って、保育理念と保育方針の実現に向けて、法人全体で取り組んでいます。
特に配慮が必要な子どもの保育について、臨床心理士の助言を取り入れて保育の実践につなげています。
2～5歳児クラスでは、外部講師による「リトミック」の活動を行っており、3～5歳児クラスでは、「英語」「体操」「絵画造形教室」の活動を取り入れています。
園庭のわきに作られた「ルーナガーデン」では、季節の野菜を栽培し、子どもたちが水やりなどをしながら、野菜の生長の様子を観察し、食に関する興味を持てるようにしています。
ポートフォリオや動画を活用して、日々の子どもの活動の様子を保護者に伝えています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月30日（契約日）～ 2023年1月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2015 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子ども一人ひとりの個性を大切に、ていねいな保育を実践しています

0～2歳児クラスの「ゆるやかな育児担当制」、3～5歳児クラスの「子どもの主体性を引き出す保育」の実践を通して、子どもの個性や思いを大切に保育にあたっています。0～2歳児クラスでは、子ども一人ひとりの育ちを見守りながら、気持ちに寄り添い、さりげなく援助を行っています。3～5歳児クラスでは、職員が問いかけを行いながら、子どもが自分で考える時間を意図的に作り、子どもが発した意見を日々の保育活動や行事の取り組みに生かしています。個別の対応が必要な時には、クラスを超えて職員間で連携を図り、子どもと一対一で向き合えるよう体制を整えるなど、子ども一人ひとりの状況に応じたていねいな保育を実践しています。

◆子どもにとって最善の環境づくりを旨としながら、保育を実践しています

園では、子どもが遊んでいる様子や環境構成の状況をポートフォリオとしてまとめ、保育実践の評価に活用しています。子どもが自分で好きな遊びを選び、思い切り楽しみながら遊びを展開できるよう、おもちゃの収納方法やコーナーづくりを工夫しているほか、さまざまな素材や道具を準備するなどしています。また、日々の保護者へのていねいな対応を心がけ、信頼関係を築きながら、双方で子どもの育ちを見守る関係性を構築するなど、子どもが安心してありのままの自分を表現できる環境を整えています。園長はじめ職員は、日々の振り返りや保護者との連携を通して、子どもにとって最善の保育環境について常に共通意識を持ち、保育を実践しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価を受けた事により、日頃の保育を振り返り反省・改善をする事で、客観的に自園を見る機会を作ることができました。

保護者への説明不足やアピールの仕方などまだまだ改善すべきところがたくさんありました。

今以上に保護者とのコミュニケーションをより密にとり、地域に開かれた保育園になるよう職員全員でチームワーク良く、法人の理念に沿った保育を心掛けたいと思います。

細部にわたり、園の様子をご覧いただきいろいろなアドバイスをくださり、より質の高い保育の向上を図ることが出来ましたこと感謝しております。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり